

NTTコムウェア

## 既存のPCをシンクライアント端末に 段階的に導入できる「コムウェア シンクライアント」

### セキュリティ強化とコスト削減を 同時に解決するシンクライアント

日本版SOX法や新会社法をはじめとした内部統制、およびコンプライアンス（法令遵守）への関心が高まってきている。また、個人情報保護法の施行後も多発している情報漏洩事件の発生を受け、よりセキュアなビジネス環境を実現する対策が求められている。「セキュリティの強化」は、依然として重要な取組みであり、「運用コストの削減」とともに、企業が直面している大きな課題である。この2つの課題を解決する手段として注目されているのがシンクライアントである。

シンクライアントとは、ハードディスクやCD-ROM/RW、フロッピーディスクおよびUSB等のストレージ系デバイスを搭載せず、さらにPC端末側には、データを一切持たないシンプルな構造のPC端末のことをいう。このシンクライアントを導入することで、次のような対策が可能となり、クライアント環境のセキュリティが強化され、情報漏洩リスクが大幅に減少される。

◆**対策1**：クライアント端末に情報が保存されないため、クライアント端末が盗難されたり紛失しても情報が漏洩する心配がない。



NTTコムウェア(株)  
ビジネスインテグレーション部  
パートナー営業部長  
松谷 光男氏



NTTコムウェア(株)  
ビジネスインテグレーション部  
パートナー営業部 チーフエンジニア  
長井 英樹氏

◆**対策2**：各クライアントに分散していた情報をサーバ側で一括管理できるので、運用コストを抑えながら、より強固なセキュリティ環境を構築することができる。

### 既存のPCをそのまま活用できる 「コムウェア シンクライアント」

シンクライアントは、セキュリティの強化と運用コストの削減という2つの課題を解決する有益なソリューションだが、「専用のシンクライアント端末が必要である」といった理由から、「大規模システムには適しているが、中小規模のシステムには適していない」との声も聞かれていた。このような声を踏まえて、コストを抑えながらシンクライアント環境を構築することを目的に開発されたのが、NTTコムウェアの「コムウェア シンクライアント」であ



Upstick  
(コムウェア シンクライアントUSB版)

る。NTTコムウェア(株) ビジネスインテグレーション部 パートナー営業部長の松谷光男氏は、コムウェアシンクライアントの特長について、次のように語っている。

「コムウェア シンクライアントは、デスクトップLinuxとして、ビジネス領域で実績を積み重ね、ビジネスサポートを保証してきたノベル

社の『Novell Linux Desktop9』をベースに開発されたソフトウェアです。約1年間、NTTグループにおいてトライアルを行い、実用性と信頼性を検証しました。このコムウェアシンクライアントの最大の長は、既存のPCをそのまま活用できることです。シンクライアント専用のOSを搭載したUSBメモリ(Upstick)、あるいはCD-ROMを既存のPCにセットするだけで、シンクライアント環境を実現することができます。PCへの新規インストールの必要はありません。利用後は、UpstickやCD-ROMをPCから取り外し、再起動するだけで通常利用しているPC環境に戻ります。このように、手軽にシンクライアントシステムの導入検討やトライアルを行うことができるので、段階的な導入にも柔軟に対応することができます。」

また、コムウェアシンクライアントは、OSがROM化されているので、基本ソフト(OS)の改ざんやウイル

ス感染によるOSの破壊もない。万一、ウイルスに感染したとしても、再起動するだけで初期状態に戻る。

### クライアントの運用管理をサーバに集約することが可能

シンクライアントを実現する代表的な方式として、「SBC (Server Based Computing) 方式」、「ブレードPC方式」、「ネットワークブート方式」がある。SBC方式とブレードPC方式は、サーバやブレードから送られた画像・データをクライアント端末で表示する、画面転送型のシンクライアント。一方ネットワークブート方式は、起動時にOSやアプリケーションをネットワーク経由でクライアント側にダウンロードして実行するものである。コムウェアシンクライアントは、SBC方式を採用している。SBC方式の特長は、クライアントの運用管理をサーバに集約することが可能なこと。図1はコムウェアシンクライアントの

利用イメージをまとめたものである。NTTコムウェア(株) ビジネスインテグレーション部 パートナー営業部 チーフエンジニアの長井英樹氏は、各シーンの利用について、次のように語っている。

「社内オフィス環境では、サーバ側でアプリケーションやファイルなどの資源を一括管理して、クライアント端末にはアプリケーションの実行・処理情報(画面情報)が転送、表示されます。クライアント/サーバ(C/S)環境では、SBC方式を利用して、既存のC/Sで行っている業務システムが移行され、社内オフィス環境と同様に画面情報を転送、表示されます。そしてオフィス以外の場所でも、RDP (Remote Desktop Protocol) の接続先やVPNの接続環境などのカスタマイズに対応できるので、社内システムにアクセスしたいというリモート環境の要望にも対応することができます。」

今後、NTTコムウェアは、デスクトップ環境のオープン化に向けて、WindowsデスクトップとLinuxデスクトップをサーバにハイブリッド統合したIT基盤の実現や、認証基盤との連携を図るなど、セキュアなビジネス環境を実現するソリューションの提供を進めていく予定である。

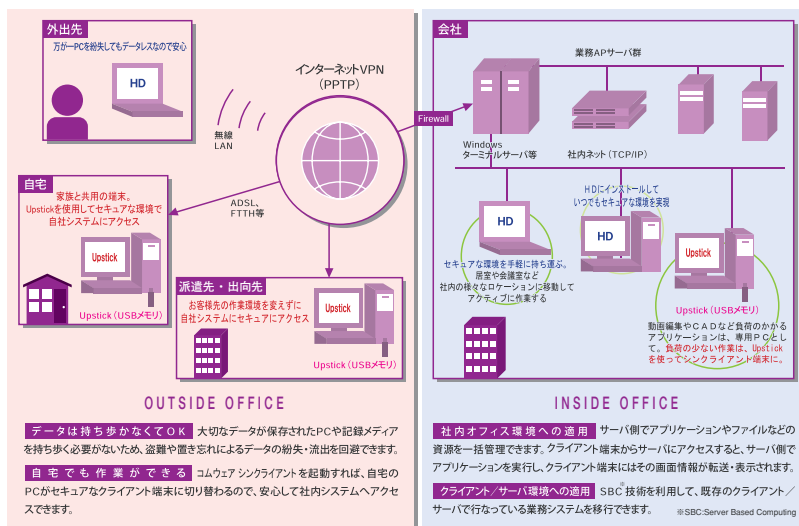


図1 コムウェアシンクライアントの利用イメージ

### お問い合わせ先

NTTコムウェア(株)

ビジネスインテグレーション部  
パートナー営業部

TEL : 03-5796-4179

E-mail : partner@nttcom.co.jp

URL : http://www.nttcom.co.jp/